

桜島の煙

「♪～花は霧島 煙草は国分 燃えて上がるは オハラハー桜島」の歌い出しで有名な「鹿児島おはら節」は鹿児島民謡の代表格である。桜島は人口 60 万人の鹿児島市内にあるが、市街地より海を隔ててわずか 4 k m。フェリーで 15 分の距離にある。ここは地球の生き使いが聞こえる迫力ある火山を一目見ようと、日本のみならず海外からも多くの観光客が訪れる極めて稀なスポットなのである。

桜島（東西 12 k m、南北 10 k m、周囲 55 k m）はかつては文字通り島であったが、1914（大正 3）年の噴火により大隅半島と陸続きとなっている。有史以来頻繁に繰り返してきた噴火は、現在も活発に活動を続けており、2011 年の爆発的噴火は 996 回を数え、観測史上最多を記録している。

桜島には 5000 人が火山と共に暮らしている。桜島大根、桜島小ミカンなどの農作物から、疲れを癒してくれる豊富な温泉。今では無くてはならない学術的にも観光資源としても、重宝されている鹿児島のシンボルである。

ここは「東洋のベニス」と称されている。それは鹿児島湾西岸の市街地から桜島を望む景観が、イタリアのナポリからヴェズーヴィオ火山を望む風景に似ているとのこと。撮影 2012 年冬



